

学んだ支え合いの精神

80年余りのプロ野球の歴史の中で、最も長い32年の現役生活を送ったのが、本市にゆかりのある山本昌さんです。50歳まで現役を続け数々の記録を樹立。長きに渡る現役生活の中でスポーツの難しさを味わう一方で、その魅力や楽しさも感じてきたことも多いはず。この特集では、茅ヶ崎を訪れた山本さんに「スポーツの力を聞きました」。

山本さんは1988年にドラフト5位で中日ドラゴンズに入団。スクリーンボールを武器に、球界屈指の左腕として活躍。2014年には49歳でプロ野球最年長勝利を記録、翌年にはプロ野球最年長登板記録を樹立した、まさに球界のレジェンドです。

の投手二人に投球の基本を身振り手振りで伝授。部員はしばらく投げると最初よりも伸びのあるボールを投げ、笑顔を見せました。

その後、今年3月にオープンする柳島スポーツ公園を見学。実際に競技場を歩いていただき

ました。球界のレジェンドは茅ヶ崎のスポーツの今後を担う施設に何を思ったのか。そして、山本さんが感じたスポーツの素晴らしさ、茅ヶ崎の子どもたちに伝えたいことは…。

控えた中学時代

——プロ野球選手という小さい頃から運動神経抜群というイメージがありますが、どんな子どもでしたか？

活発な子どもだったと思います。性格的には、前に出ることで好きで、クラスでも目立つ方でした。ただ、運動神経抜群というのではなく、体育の成績は満点の10を取ったことはありませんでした。体は大きかったの

ですが、運動神経がついていてなかつたです。中学生の頃は、松林中学校の広い校庭で、野球にのめり込んでいました。でも、部活動には「文武両道」の方針があったので、勉強も頑張っていました。

——中学時代はレギュラーではなかったと聞きました。何かきっかけがあったのですか？

中学の3年間ははずっと控えでしたが、進学も野球の強豪校ではない学校に行く予定でした。変わるきっかけは3年生の最後の大会で、エースがけがをして、自分にチャンスが回ってきたことです。私はその試合で好投し、その投球が日大藤沢高校の監督の目に留まり、強豪校へ進学することになりました。これが自分の野球人生の大きな転換点だったと思っています。

家族、ファンの応援が力に

——その後、高校でも活躍し、プロ野球を代表する選手になりました。50歳まで現役生活を送られ、スポーツの楽しさと苦しさどちらも味わってこられたと思います。そんな山本さんが考えるスポーツの素晴らしさとは何ですか？

スポーツは、さまざまなことを学べるのが素晴らしいと思います。私は子どもの頃から家族や友達と盛り上げてくれる環境で、自分は選手としてその期待に応えるために努力してきました。そういった意味では、スポーツは自分に「支え合う」ことの大切さを教えてくれたと感じています。

支え合いは、プロになってからはファンのみなさんとの関係でも築かれました。ファンの声援や応援ですごく力になるんです。試合で苦しい場面でも、応援してくれるファンの声援があつて、踏ん張れた場面がたくさんありました。長く現役を続けられたのもみなさんの支えがあったからだと思います。

——人間関係が希薄といわれる現代ですが、日常生活の中ではなかなか支え合うことが少なく

スポーツを楽しんで

2015年に現役を引退され、野球解説者の傍ら、子どもたちに指導することも多くあると思いますが、必ず伝えていることはありますか？

子どもたちにはスポーツを楽しんでほしいので「けがをしない」ということは必ず伝えていきます。けがをしなからせつかくの好きなスポーツを楽しめな



アドバイスを真剣なまなざしで聞く部員

なっていると思います。スポーツを通して学ぶことは大きな意義がありますね。

人と人が支え合うことで責任感が芽生え、それは人を成長させます。他にもスポーツを通して仲間の大切さや、我慢強さ、最後までやりきること、努力することが学べると思っています。

仲間と共に過ごした時間は貴重で、今でも中学校の仲間とは飲みに行くぐらい仲が良いんですよ。

一番気を付けています。けがをしないためには、基本が大事です。正しい投げ方や捕り方、打ち方をすることです。それはプロの世界でも変わりません。私自身、松林中学時代に基本を徹底的に教えられました。あの時の教えがなければ50歳まで現役でいられたら、ましてやプロにもなれなかつたと思います。32年間もプ

ロで野球ができたのは小学生・中学生の頃の先生のおかげだと思います。——スポーツの成長には良い指導者がとても大切ですね。指導する上で、大切にしていることは何ですか？

自分の経験から考えて、良い指導者との出会いは大事だと思えます。だから、指導する方は、自分の指導で子どもの将来が変わるという意識を持って、しっかり勉強してほしいです。教えるのは技術だけではありません。礼儀やマナーなどもしっかり教えられる指導者が良い指導者だと考えます。人間的にも成長させてくれる人が良い指導者の条件です。

——プロ時代もいろいろな指導を経験したと思いますが、どの指導者が印象的ですか？

一番、印象に残っているのは星野(仙二)監督ですね。とにかく厳しい方でした。ただ、その指導がなければ、プロ野球選手として開花していなかったと思います。たくさん叱られました。試合でも使ってくれました。私を選手としても人間としても成長させてくれた監督でした。

指導は正解が一つではありません。私は星野監督のようなカリスマ性がある方ではないので、精神論というよりも、技術論のほうに合うかなと思います。精神論に伴った技術を教えていきたい。「なんとかせい！」ではなく、「こうなったらこんな風に動くんぞ」と。私もそういう技術を突き詰めてき

山本さんの指導で見違えるほど伸びのあるボールを投げ、笑顔を見せた部員

